



## 平成30年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 トラストホールディングス株式会社  
 コード番号 3286 URL <http://www.trust-hd.co.jp>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 喜久田 匡宏

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 矢羽田 弘

TEL 092-437-8944

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日

平成30年2月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年6月期第2四半期の連結業績(平成29年7月1日～平成29年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第2四半期	5,550	3.1	24		59		171	
29年6月期第2四半期	5,730	11.8	148		297		106	

(注) 包括利益 30年6月期第2四半期 172百万円 ( %) 29年6月期第2四半期 102百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第2四半期	35.75	
29年6月期第2四半期	22.30	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年6月期第2四半期	12,687	394	3.1	82.31
29年6月期	12,917	606	4.7	126.74

(参考) 自己資本 30年6月期第2四半期 394百万円 29年6月期 606百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期		8.20		8.20	16.40
30年6月期		8.20			
30年6月期(予想)				8.20	16.40

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年6月期の連結業績予想(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,500	17.5	750	20.3	600	69.9	150	245.1	31.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想については、本日(平成30年2月9日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年6月期2Q	5,204,500 株	29年6月期	5,204,500 株
期末自己株式数	30年6月期2Q	414,985 株	29年6月期	416,485 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年6月期2Q	4,788,751 株	29年6月期2Q	4,783,921 株

(注) 期末自己株式数は、株式付与 ESO P 信託口が所有する当社株式が含まれております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっては、四半期決算短信(添付資料)4ページ<sup>1</sup>(3)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策や大胆な金融政策などを背景として、企業業績の向上や雇用環境の改善など、着実に景気回復の兆しが見られてきております。

このような状況の中、当社グループは駐車場事業の収益力向上、不動産事業における新築マンション及び駐車場小口化商品「トラストパートナーズ」の販売強化の他、各種新規事業の収益改善等に注力してまいりました。

なお、アミューズメント事業において創作和食店「彩然広島LECT店（広島市西区）」を平成30年1月末にて閉鎖、退店予定に伴い、固定資産減損損失及び退店違約金等を特別損失に計上しております。

以上の結果、売上高は5,550,852千円（前年同期比3.1%減）、営業利益24,270千円（前年同期は148,488千円の営業損失）、経常損失59,674千円（前年同期は297,077千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は171,213千円（前年同期は106,711千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントの業績については、以下のとおりであります。

#### ①駐車場事業

収益性を重視した新規駐車場開発及びタイムリーな料金改定等の既存駐車場活性化を引き続き実施してまいりました。

また、平成29年4月に「トラストパートナーズ第5号（札幌市、北九州市、福岡市、鹿児島市の4物件を1パッケージ化）」が完売したことに伴い、組成した4物件の賃料を同月より計上しております。

以上の結果、売上高は3,405,484千円（前年同期比1.3%増）、営業利益187,345千円（同45.3%減）となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の駐車場数は796ヶ所（前年同期より27ヶ所増、前連結会計年度末より36ヶ所増）、車室数は31,790車室（前年同期より574車室増、前連結会計年度末より400車室増）となっております。

#### ②不動産等事業

マンション、戸建住宅等の販売等部門につきましては、当第2四半期連結会計期間においては、新築マンションの竣工はなく、既竣工物件である「トラストネクサス新椋野Ⅱ（山口県下関市）」の販売に注力、15戸の引渡を実施した結果、売上高667,506千円（前年同期比18.9%減）、営業損失50,138千円（前年同期は110,453千円の営業損失）となりました。

なお、当連結会計年度におきましては、新築マンション2棟「トラスト山里ヒルズ（沖縄県沖縄市、36戸、平成30年4月竣工予定）」、「トラストネクサス速玉パークレジデンス（山口県周南市、51戸、平成30年5月竣工予定）」の竣工を予定しております。

また、不動産特定共同事業法に基づく駐車場小口化商品であります「トラストパートナーズ」の販売部門につきましては、「トラストパートナーズ第6号（福岡市博多区）」、「トラストパートナーズ第7号（宮崎県宮崎市）」及び「トラストパートナーズ第8号（福岡県糟屋郡新宮町）」が完売した結果、売上高471,392千円（前年同期は4,145千円の売上高）、営業利益72,336千円（前年同期は122,265千円の営業損失）となりました。

以上の結果、不動産事業の売上高は1,138,898千円（前年同期比37.7%増）、営業利益22,197千円（前年同期は232,718千円の営業損失）となりました。

#### ③ウォーター事業

水素水の販売を中心として行うウォーター事業におきましては、前連結会計年度より広告戦略を転換、より効果的な広告手法を模索してまいりましたが、水素水全般に対するネガティブな報道の影響もあり、定期顧客数を伸ばさせることができませんでした。このような状況のなか、平成29年11月よりパウチタイプの天然発酵エキスを配合した水素水「糸島の健酵」の販売を開始、新規顧客の獲得を図ってまいりました。

以上の結果、売上高300,042千円（前年同期比60.7%減）、営業損失5,150千円（前年同期は126,937千円の営業損失）となりました。

④アミューズメント事業

アミューズメント事業につきましては、温浴施設「那珂川清滝（福岡県筑紫郡那珂川町）」、「和楽の湯 下関せいりゅう（山口県下関市）」及びゴルフ練習場「カスタネット倶楽部水巻（福岡県遠賀郡水巻町）」の既存施設におきましては、来場者数が伸び悩む中、各種サービス内容の見直し等を実施、収益の確保に注力してまいりました。

また、平成29年7月に広島市西区にある複合商業施設LECT内に創作和食店「彩然広島LECT店」をオープンいたしました。来店者数が計画を大きく下回る結果となり、当事業の収益を圧迫いたしました。

以上の結果、売上高374,628千円（前年同期比7.4%減）、営業損失62,817千円（前年同期は36,130千円の営業損失）となりました。

なお、創作和食店「彩然広島LECT店」及び「和楽の湯 下関せいりゅう」内で営業しておりました「お食事処 彩然」につきまして、平成30年1月末をもって閉鎖、採算改善を図ってまいります。

⑤メディカルサービス事業

メディカルサービス事業につきましては、「介護老人保健施設みやこ」及び「福岡信和病院」の賃貸収入等により概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高94,104千円（前年同期比0.7%減）、営業利益7,570千円（前年同期比41.0%減）となりました。

⑥RV事業

RV事業につきましては、引き続き販売体制の構築に注力してまいりましたが、受注状況に改善の兆しが見え始めてはいるものの、当第2四半期連結累計期間においては、販売台数を伸ばすことができませんでした。

また、製造原価の低減に本格的に着手、生産工程の見直し及び材料費削減に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高99,258千円（前年同期比45.3%減）、営業損失87,682千円（前年同期は47,797千円の営業損失）となりました。

⑦その他事業

その他事業につきましては、警備事業等の既存事業の拡張に加え、新規事業の早期収益化に向けスキンケア商品「ミニュール」の顧客拡大、エコ関連商品の販売等に注力してまいりました。

以上の結果、売上高138,434千円（前年同期比38.8%増）、営業損失54,069千円（前年同期は79,888千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

1. 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末と比較して234,233千円増加し、7,518,460千円となりました。主な増加要因は、販売用不動産の増加1,344,028千円、原材料及び貯蔵品の増加57,791千円、商品及び製品の増加40,634千円及び流動資産その他の増加198,069千円であります。一方、主な減少要因は現金及び預金の減少115,411千円、仕掛販売用不動産の減少1,287,501千円であります。固定資産は前連結会計年度末と比較して464,595千円減少し、5,168,720千円となりました。主な減少要因は償却によるのれんの減少34,498千円、売却による土地の減少324,256千円であります。

この結果、総資産は12,687,181千円となり、前連結会計年度末に比べ、230,361千円減少しました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末と比較して318,709千円減少し、5,146,878千円となりました。主な増加要因は、短期借入金の増加362,900千円であります。一方、主な減少要因は買掛金の減少270,746千円及び流動負債その他の減少238,455千円であります。固定負債は前連結会計年度末と比較して300,941千円増加し、7,146,041千円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加304,658千円であります。

この結果、負債合計は12,292,919千円となり、前連結会計年度末に比べ、17,768千円減少しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して212,593千円減少し、394,261千円となりました。主な減少要因は、配当金の支払40,831千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上171,213千円であります。

この結果、自己資本比率は3.1%（前連結会計年度末は4.7%）となりました。

2. キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較し116,611千円減少し、1,023,289千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、187,346千円のマイナス（前年同期は766,674千円のマイナス）となりました。これは主に、駐車場設備等の減価償却費275,047千円、店舗の閉鎖等に伴う減損損失114,975千円、たな卸資産の減少による増加額148,760千円、仕入債務の減少額270,746千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、302,033千円のマイナス（前年同期は748,797千円のプラス）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出205,201千円、貸付けによる支出112,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、373,535千円のプラス（前年同期は254,956千円のマイナス）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額362,900千円、長期借入れによる収入900,000千円と長期借入金の返済による支出753,581千円、配当金の支払額41,609千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年6月期の通期の連結業績予想につきましては、平成29年8月10日に公表いたしました「平成29年6月期決算短信」における連結業績予想を修正しております。詳細については、本日（平成30年2月9日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,195,513	1,080,102
受取手形及び売掛金	263,460	272,516
販売用不動産	1,047,373	2,391,402
仕掛販売用不動産	3,098,026	1,810,524
商品及び製品	164,020	204,654
原材料及び貯蔵品	63,771	121,562
仕掛品	20,961	16,814
その他	1,474,804	1,672,874
貸倒引当金	△43,706	△51,992
流動資産合計	7,284,227	7,518,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,389,348	2,346,631
土地	1,412,191	1,087,934
その他(純額)	712,722	707,506
有形固定資産合計	4,514,262	4,142,072
無形固定資産		
のれん	285,912	251,414
その他	98,363	76,104
無形固定資産合計	384,276	327,519
投資その他の資産		
その他	734,777	699,129
投資その他の資産合計	734,777	699,129
固定資産合計	5,633,316	5,168,720
資産合計	12,917,543	12,687,181

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	490,095	219,348
短期借入金	2,970,000	3,332,900
1年内返済予定の長期借入金	768,028	609,789
未払法人税等	69,381	43,890
ポイント引当金	24,712	21,971
資産除去債務	4,330	19,530
返品調整引当金	380	289
受注損失引当金	1,046	—
その他	1,137,614	899,159
流動負債合計	5,465,588	5,146,878
固定負債		
長期借入金	6,078,911	6,383,569
株式給付引当金	10,149	9,669
退職給付に係る負債	43,679	44,927
資産除去債務	93,836	99,666
その他	618,523	608,209
固定負債合計	6,845,099	7,146,041
負債合計	12,310,687	12,292,919
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	422,996	422,996
資本剰余金	224,086	224,086
利益剰余金	165,835	△46,209
自己株式	△203,078	△202,597
株主資本合計	609,840	398,276
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△69	△386
為替換算調整勘定	△2,915	△3,627
その他の包括利益累計額合計	△2,985	△4,014
純資産合計	606,855	394,261
負債純資産合計	12,917,543	12,687,181



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
売上高	5,730,827	5,550,852
売上原価	4,227,951	4,360,536
売上総利益	1,502,875	1,190,316
販売費及び一般管理費	1,651,364	1,166,045
営業利益又は営業損失(△)	△148,488	24,270
営業外収益		
受取利息	351	1,319
受取配当金	706	0
受取解約違約金	972	1,362
投資有価証券売却益	2,309	2,425
受取保険料	842	9,317
その他	17,995	7,906
営業外収益合計	23,179	22,330
営業外費用		
支払利息	95,483	85,272
不動産特定共同事業分配金	58,097	—
投資有価証券売却損	1,395	—
その他	16,791	21,003
営業外費用合計	171,768	106,275
経常損失(△)	△297,077	△59,674
特別利益		
固定資産売却益	163,169	1,568
保険解約返戻金	31,520	—
特別利益合計	194,689	1,568
特別損失		
減損損失	5,520	114,975
固定資産売却損	2,127	—
退店違約金等	—	12,936
特別損失合計	7,648	127,912
税金等調整前四半期純損失(△)	△110,037	△186,017
法人税、住民税及び事業税	27,710	21,196
法人税等調整額	△31,036	△36,000
法人税等合計	△3,325	△14,804
四半期純損失(△)	△106,711	△171,213
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△106,711	△171,213

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純損失(△)	△106,711	△171,213
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,372	△317
為替換算調整勘定	34	△711
その他の包括利益合計	4,406	△1,028
四半期包括利益	△102,304	△172,242
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△102,304	△172,242
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△110,037	△186,017
減価償却費	312,751	275,047
減損損失	5,520	114,975
のれん償却額	46,903	34,498
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,324	8,286
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△2,587	△2,741
株式給付引当金の増減額(△は減少)	96	896
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△3,001	1,248
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△250	△91
受注損失引当金の増減額(△は減少)	—	△1,046
受取利息及び受取配当金	△1,058	△1,319
支払利息	95,483	85,272
固定資産除却損	2,980	2,556
有形固定資産売却損益(△は益)	△161,041	△1,568
投資有価証券売却損益(△は益)	△913	△2,425
退店違約金等	—	12,936
保険解約損益(△は益)	△31,520	—
売上債権の増減額(△は増加)	58,597	△9,055
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,046,535	148,760
仕入債務の増減額(△は減少)	△291,397	△270,746
営業貸付金の増減額(△は増加)	12,972	△37,929
前受金の増減額(△は減少)	778,149	15,364
その他	△317,589	△247,403
小計	△653,799	△60,500
利息及び配当金の受取額	1,058	1,319
利息の支払額	△91,563	△83,050
法人税等の支払額	△25,849	△45,115
法人税等の還付額	3,479	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△766,674	△187,346
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△13,203	△15,600
定期預金の払戻による収入	12,000	14,400
有形固定資産の取得による支出	△230,108	△205,201
無形固定資産の取得による支出	△3,028	—
有形固定資産の売却による収入	948,047	10,600
投資有価証券の取得による支出	△20,100	△10,250
投資有価証券の売却による収入	76,233	22,675
保険解約返戻金による収入	31,520	—
貸付けによる支出	△40,000	△112,000
貸付金の回収による収入	41	19,200
敷金の差入による支出	△13,208	△30,881
敷金の回収による収入	6,642	9,602
その他	△6,038	△4,578
投資活動によるキャッシュ・フロー	748,797	△302,033

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△855,700	362,900
長期借入れによる収入	2,070,000	900,000
長期借入金の返済による支出	△1,340,898	△753,581
リース債務の返済による支出	△89,242	△93,780
配当金の支払額	△40,717	△41,609
その他	1,600	△393
財務活動によるキャッシュ・フロー	△254,956	373,535
現金及び現金同等物に係る換算差額	316	△766
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△272,518	△116,611
現金及び現金同等物の期首残高	1,923,845	1,139,900
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,651,327	1,023,289

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	計
売上高							
外部顧客への売上高	3,360,517	826,930	762,750	404,716	94,761	181,412	5,631,089
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,701	17,708	2,922	1,456	—	500	25,289
計	3,363,218	844,639	765,673	406,173	94,761	181,912	5,656,379
セグメント利益又は損失(△)	342,267	△232,718	△126,937	△36,130	12,836	△47,797	△88,480

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	99,737	5,730,827	—	5,730,827
セグメント間の内部売上高又は振替高	107,799	133,088	(133,088)	—
計	207,536	5,863,915	(133,088)	5,730,827
セグメント利益又は損失(△)	△79,888	△168,368	19,879	△148,488

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去214,769千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△194,919千円及び棚卸資産等の調整額29千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,520千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成29年7月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	計
売上高							
外部顧客への売上高	3,405,484	1,138,898	300,042	374,628	94,104	99,258	5,412,417
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,187	30,905	2,205	2,775	—	631	39,706
計	3,408,672	1,169,804	302,248	377,404	94,104	99,889	5,452,124
セグメント利益又は損失(△)	187,345	22,197	△5,150	△62,817	7,570	△87,682	61,462

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	138,434	5,550,852	—	5,550,852
セグメント間の内部売上高又は振替高	125,441	165,147	(165,147)	—
計	263,876	5,716,000	(165,147)	5,550,852
セグメント利益又は損失(△)	△54,069	7,392	16,877	24,270

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去228,390千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△211,410千円及び棚卸資産等の調整額△101千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アミューズメント事業」セグメントにおいて、資産の用途変更に伴い、温浴施設における地質調査及び建築設計等に生じた費用の全額を減損損失として計上しております。また、創作和食店の閉鎖予定に伴い、当該店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては108,783千円であります。

「その他」の区分において、保有する資産の譲渡による用途の変更予定により、当該資産を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては5,076千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。